



# 日本道経会

1

No. 290  
月号

## 本会の目的

本会は、「道徳経済一体」の理念に基づき、産業人教育の推進ならびに繁栄と永続の企業の創造につとめ、経済倫理の確立および経済界の安定的発展に寄与し、地球市民の一員として社会に貢献することを目的としています。

日本道経会会員社数 / 互敬塾塾生  
732社 / 506名

(令和6年1月1日現在)

巻頭言

## 年頭のご挨拶

佐藤薬品工業（株） 代表取締役会長  
(一社) 日本道経会 会長

**佐 藤 進**

日本道経会の会員の皆様、明けましておめでとうございます。

令和6年元旦に発生した、能登半島地震にて被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。

さて、コロナウイルスの感染症分類も2類から5類への変更となり、経済活動も人の動きも活発になってきました。

しかし、その一方ではエネルギー価格の高騰、円安、物価高に歯止めがかからないまま、中小企業の経営を直撃しております。

景気回復には、まだまだ時間が必要であるように思われます。しかし、会員企業は中小企業の集まりであります。この状況を乗り越えて行かなければなりません。

この状況を乗り越えるためには、「道経一体経営思想」「三方よし」の実践経営が確実な方法であると信じて前進する事だと考えます。

世界に目を向けるとウクライナとロシアの戦争、またイスラエルとハマスの紛争の勃発など権力争いによっての戦いが絶えません。世界の平和がいつ

訪れるか不安な時期、難しい時期に入っているようになります。1日でも早く世界が平和な日常になることを願うばかりであります。

日本道経会は昨年より正常の活動が出来るようになり、今年も引き続き、企業の品性資本、「つくる力：創造力」「つながる力：コミュニケーション力」「もちこたえる力：持続力」を結集し大地に根を張った活動を進められるようにしてまいります。

会員数は現在732社、互敬塾生は506名であります。継続して会員の増強に尽力頂きますようお願い申し上げます。

その為には、会員が「道経一体思想」を学び「三方よし」の実践をして永続する企業となり、日本道経会（中小企業経営）の見本企業となって、社会にPRして頂くことです。弊社は、まだまだPR出来る企業ではありませんが、「道経一体経営」「三方よし経営」の実現を目指して精進し前進しております。

会員の皆様と共に、永続発展する企業、人づくり企業の実現を目指して前進してまいりましょう。

今年も会員の皆様がご健勝にて活躍されますこと、会員の皆様の企業の繁栄をご祈念申し上げますと共に日本道経会に対しましてより一層のご協力とご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

一般社団法人  
**日本道経会**  
スローガン

理念 未来を拓く企業の姿は 三方よし  
活動 企業の繁栄は人づくり経営にあり

## 京都支部 経済講演会



令和5年11月15日（水）18:00から、ホテルオークラ京都にて「京都支部 経済講演会」を開催しました。

講師に株式会社 minitts 代表取締役 中村朱美氏をお迎えし『逆境に負けない中小企業の作り方』というテーマにてご講演をいただきました。

中村氏は1日100食限定の「国産ステーキ丼専門店 佰食屋」を経営されており、残業ゼロ、食品ロスの抑制、100食のゴール設定で社員のモチベーションアップを実現し、子育て中の女性や障がいのある人、介護を担う人なども積極的に採用するなど、様々な取組みで「佰食屋」を取り組が絶えない人気店に成長させておられます。

まず冒頭、中村氏から100食という制約が生んだメリットについてお話をいただきました。

100食限定にする事により、冷凍庫を持たずフードロスを限りなくゼロにでき、在庫確認・発注などの業務削減、それによる人的ミスを防ぐ事ができる。また 100食という

目標設定数を下げる事により、大雨の日や警報の日などの集客の波があっても目標を達成することができ、赤字にならないなどのお話をいただきました。

続きまして人手不足にならない組織づくりについてお話をいただきました。

出退勤時間は自分で選べ、飲食店でもいつでもしっかりと休める体制を整えておられるのと、有給休暇は従業員で自由に管理ができる事や、100食限定による毎日80%の実力でこなせる労働量による従業員の負担の削減など、様々な試みで人手不足に陥らないシステムを構築されておられました。

しかし、そんな佰食屋さんにもピンチはあり、それはコロナウィルス感染拡大の影響による店舗の閉鎖でした。4店舗のうち2店舗を閉鎖せざるをえず、その時には眠れない日々が続いたとお話をされました。ただ店舗の閉鎖後、転んでもただでは起きない精神のもと社会課題を解決するべくソーシャルビジネスに挑戦され大量廃棄フードロス問題を解決するべく奔走しておられます。

今回、中村氏のお話を聞かせていただき、通常の飲食店とは違う視点、常識などを実践されており様々な気付きを頂戴しました。

業種は違いますが参考にさせていただき、今後の自社事業に活かして生きたい所存です。

京都支部幹事 田中 良明

## 石川・富山支部 企業訪問



令和5年11月17日（金）～19日（日）『月刊三方よし経営』8月号に掲載されていました福岡市の「拓新産業株式会社」様へメンバー8名で企業訪問し、経営に対する考え方、特に社員さんへの基本姿勢を勉強させていただきました。

社員の皆さんには明るい笑顔で、我々を迎えていただき、社内は非常に整理整頓清掃が行き届いていました。会議室では、企業理念や社是はもちろん、働く心構えをはじめ会議の進め方などが貼られていました。また、経営方針書や社内報など、すべて社員さんがそれぞれの責任の上で作成していました。

特に驚いたことは、お客様の都合を優先にするのではなく、社員さんの働く時間（残業ゼロ）を優先している事、休日出勤は一切ない事、チームワークやコミュニケーションをとても大事にしている事です。また、社長の後継は、親族ではなく社員の中からふさわしい方を育成し、現在の宮里社長が代表取締役を務められている事です。

これら、すべての事は、先代創業社長が決められた

ことで、その意思をしっかり受け継ぎ会社経営をされていました。

CSよりもESを重視し、安定的な利益を作り上げる徹底した固定費（ロスコスト）削減と3Sをはじめ一貫した社員教育の仕組みがしっかりと浸透されている会社でした。

人手不足の時代にも拘らず、入社を希望される新卒者も多く、退職者は極めて少ない理想の経営、これから必要不可欠とも言える経営姿勢を学びとても勉強になりました。

株式会社 ふらん・どーる 代表取締役 金岩 重典

## 滋賀支部 例会

令和5年11月21日（火）18:00から、クサツエストピアホテルにて11月度例会を開催しました。講師に（公財）モラロジー道徳教育財団企業センター副センター長の島田潤一郎氏をお迎えして、「道経一体の財務戦略」というテーマにてご講演をいただきました。

ポイントとして、4つありました。

1. 営業利益を増やす4つの方法
2. 致富の経営
3. 品性資本の“つながる力”…ご縁
4. 「品性の力」のお手本

内容については、講師ご自身の銀行員としての経験を基に、数字による利益向上方法や、仕事での成功事例、失敗事例を交えて分かり易く説明して頂きました。こんなことを話してもいいのかとも思いました。会社経営をする上で数字を求めるることは、重要かつ必要ですが、どういった心構えで仕事に取り組んでいるのかが大切で

あり、その結果が数字に現れることを学びました。相手に寄り添う道徳を実行し、又そういう心遣いの出来る自分自身と社員の育成も必要であると思いました。

今回から日本道経会の内容が良いという事で、新たな会員も加入していただきました。引き続き、懇親会にて会員との交流を深めていただき、例会を終了しました。

例会部会長 川瀬 努



## 岐阜互敬塾例会

令和5年11月17日（金）岐阜互敬塾としては初めての例会セミナーを開催させていただきました。

東海支部から独立して、初めてでしたが、開催にあたり、愛知支部、三重支部にも協力をいただきました。ありがとうございました。

例会のテーマは、『あなたの会社も銀行から格付けされている。銀行との上手な付き合い方』というテーマで、モラロジー道徳教育財団・企業センター副センター長の島田潤一郎氏を講師としてお招きいたしました。

今期の互敬塾全体の目標の一つに、道経一体経営講座の受講が挙げられております。令和5年2月に参加した際、他の塾生にも興味を持つてもらえる内容だと感じ、その場で島田氏にお願いをして今回の例会セミナーが実現しました。

参加者は全部で6名。財務状況を見る視点で、経営

者、税務署、そして銀行の3つの視点がありますが、今回は銀行からの視点に特化した内容でした。実際の決算書を使い、返済能力をどう算出されているのかを知る良い機会となりました。参加者の感想としては「計算方法など、経営者にとって重要なスキルですのでまた参加したい」「銀行の経験を通じた貴重なお話ありがとうございました。社長は、財務理解と銀行との付合など生命線である事を知る事が出来、良い知見となりました」というような感想をいただきました。ぜひ道経一体受講へ繋げていければと思いますし、1名セミナーを通じて塾生への申し込みがありこちらも良かったです。その後の懇親会も大いに盛り上がりました。島田講師 短い時間でしたが、本当にありがとうございました。ぜひ他支部の皆さんにもおすすめのテーマと講師です。

岐阜互敬塾支部長 三宅 善人

## 福井支部 嶺北地区例会

令和5年11月27日(月)福井支部の嶺北地区例会を開催しました。

会場は福井支部会員企業の有限会社宝永旅館様でした。

この旅館は創業70年の歴史があり、福井でも安くて料理がおいしいと評判で、さらに女将は落語家でいつもお客様を笑わせて楽しませるという、ほぼホテル形式の旅館です。

今回の講師は、福井支部会員であり、武生モラロジー事務所所属の株式会社サン理容 代表取締役 永留博毅氏です。

今年10月モラロジー道徳教育財団の生涯学習講師候補として選任され、今年12月2日~5日まで本部にて論文講座を受講したそうです。

永留講師の話は、今から苦労を乗り越えようとしている15歳(高校1年生)のA少年の話でその父親からの相談のお

話でした。

講演の後、越前の味覚である雄と雌のカニで舌鼓を打たせていただき懇親会が大いに盛り上がったことは言うまでもありません。

福井支部 伴 敏行



## 奈良支部例会

令和5年12月1日(金)17時20分より、12月例会をザ・櫃原ダイワロイタルホテルにて開催いたしました。参加者は63名でした。

誓いの言葉唱和・開会挨拶の後、株式会社ホンダ商会代表取締役社長 本多 浩氏の会員スピーチがあり、社名が自動車メーカーのホンダと同じで商売上はよかったです、現在は車の部品にとどまらず流通・食品分野にも進出し総合商社として事業を展開していることなどをお話しされました。

続いて、「今、企業に求められているもの～道経一体経営の現代的課題への実践～」と題して、公益財団法人モラロジー道徳教育財団の経営相談員・MBIで中小企業診断士・経営研究所ワンナップ代表 原 孝司氏にご講演いただきました。原講師からは、最初に中国後漢末の学者・荀悦の、「四患」偽(うそ偽りの多い態度)・私(私利私欲)・放(勝手気まま)・奢(おごりや贅沢)がはびこると国が亡ぶという言葉を紹介され、このような人間にならないようにと話されました。続けて、企業の目的は「価値ある企業、持続可能な企業となること」すなわち万世不朽・永続する企業になることであり、そのためには、リーダーが人づくりを通じて自らの品性資本(心の資本)を向上させることが大切。経営者・リーダーが、企業活動を通して、周りの手本となるような生き様をすること、社会を益すことのできる人づくりを優先し、自らの繁栄も果たせる、「新たな三方よし経営」「致富の経営」をめざすことが大切と話されました。また、社員満足・社員幸福度を高めると結果として

社会の安心・幸福の実現につながる。適材適所ということを通じて能力も引出し高めて、新たな価値観を生み出す。新しいことへ挑戦すると「脳は活性化し、知恵が生まれる」。また、感謝の心、世の中の役に立つ前向きの心、利他之心、思いやり、祈りの心、愛察(あいさつ=愛情をもって相手を察する、相手の幸せを心の中で念じる)を継続する、このような心を商品に込める。より良いものでお客様の幸せのために、お互いにより良くなるために自分磨きをすることが信用・信頼・安全・安心(ブランディング)につながり、自分の周囲の多くの人に良い影響を与えることができ、企業の永続につながると締めくられました。今回の講演で自分磨きがいかに大切か教えていただきました。

講演の後は懇親忘年会に移り、参加者の皆様は大いに楽しんでいただき、楽しい時間を過ごせました。

事務局 上田 豊彦



本会報のバックナンバーはホームページをご覧いただけます。

NIHON DOHKEIKAI <http://www.ndk.gr.jp>

一般社団法人

発行：日本道経会

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1  
TEL. (04) 7173-3172 FAX. (04) 7173-3134  
E-mail office@ndk.gr.jp

事務局だより

令和6年がスタートしました。今も会員の皆様のご健勝を祈念しております。本部事務局一同、日々感謝の気持ちを忘れず、少しでも会員様のお役に立てますように努力させていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

本部事務局